

## アユ産卵調査およびヒウオ生息状況調査結果

片岡 佳孝

### ◆背景・目的

アユ資源の新規加入状況を把握するために県内の主要産卵河川でアユの産卵調査を行うとともに、琵琶湖内でのヒウオ（アユ仔魚）の生息状況調査を行った。

### ◆成果の内容・特徴

- 県内の主要産卵河川（11河川1分流）において、平成16年8月～11月にかけて行った6回の産卵調査では、平年の37%に相当する42.6億粒の有効産着卵が確認された（図1）。
- 平成16年10月～12月（各月1回）に行ったヒウオ生息状況調査（定量ネットによる夜間の曳網調査）では、平年の22～42%に相当する密度でのヒウオの生息が確認された（図2）。

### ◆成果の活用・留意点

- 平成16年のアユの産卵状況とヒウオ生息状況は、ともに平年値を大きく下回っているため、今後は一層、資源動向の把握に努める必要がある。

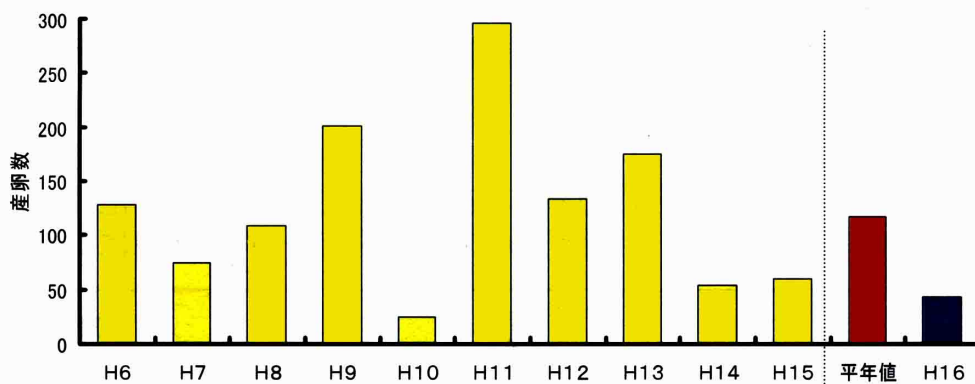


図1 アユの有効産着卵数の経年比較

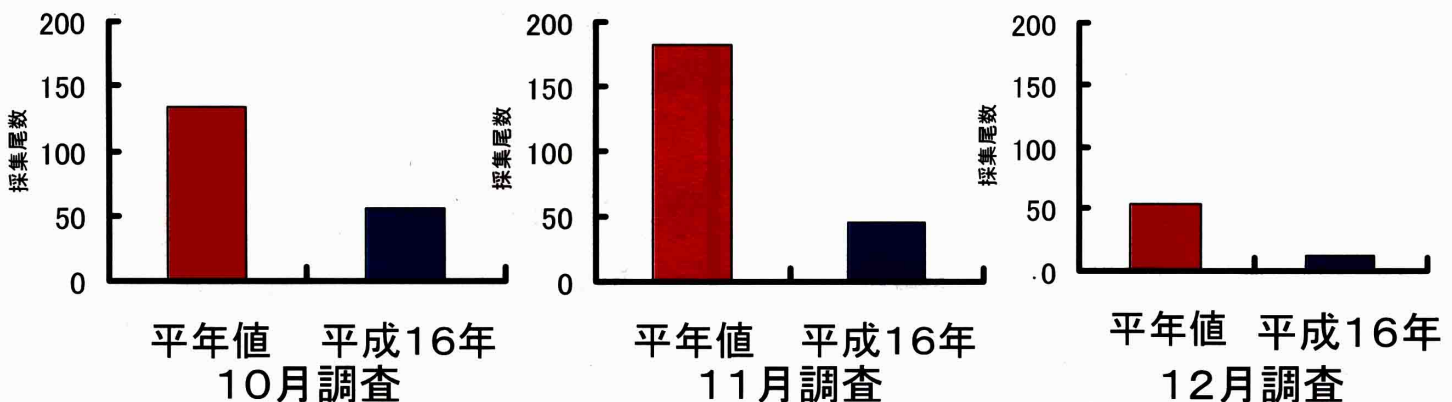


図2 ヒウオ生息状況調査結果